

2024

育児施設の為の道具

A Tool For Child Care Facilities

AD 29 土方 和樹
指導教員 小西 均

1.研究目的

育児施設内の家具、道具は子供の成長や行動に対応し、快適な育児環境であるべきである。しかし、現状では子供の成長や行動に対応しきれていないものが多く見られ、子供の成長と行動、遊びを考慮した安全な家具、道具の研究が必要であると思った。

2.調査と分析

1、保育施設の現状

おもちゃ箱上履きケースなどの収納関係は応用性が高く安価なカラーボックスや牛乳パック、100円ショップの商品などが多く使われていた。

安全対策については、危険性が感じられる箇所には布や市販のスポンジシールでカバーするなどの細かい配慮がなされていた。

2、身体に身近な椅子

・体系変化に対する配慮

幾つかの企画があるが体系変化に対応していないため牛乳パックなどで調節しているケースがある。

・椅子の役割と安全性

姿勢の矯正と行儀の学習、遊びおよび視力の維持が主な目的であり、形状としては角や重量、重心位置、強度への対応が重要であることがわかった。

3.コンセプトの立案

『ボクのワタシのイス』

・「自分の物」という物に対する愛着を持ってくれるようなもの

・自分の体系にしっかりと合い姿勢に良いもの
デザイン条件

・身長に合わせたサイズ適合

・安全性と保育期間での有効性

4.デザイン展開

1、椅子を使った遊び、配列の楽しさから

「オムズビ型」

平面的な配列の自由度に特化した形を目指し、形も特徴的にまとめたが必要上背もたれを加えた結果、平面的な自由度が半減してしまった。



2、体系変化の対応から

「座面差し替え式」

座面の高さや深さを調節できる案を作成したが重量が多い上に角ばっているため、安全性に欠ける。



3、子供の興味関心から

「積み立て式」

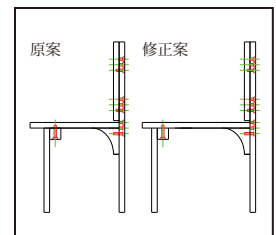
ブロックのように積み立てることができるものを目指し、シンプルな形にまとめたが、崩れる際に危険性がともなってしまう。



4、最終案

深く子どもの成長に関わることでできるものを目指した。特徴の取り外しのできる背もたれは三年間使い続け、二年目に好きな色を塗り、三年目に自分で顔を書き込むことで、物に対する愛着をわかせることができ、物を大切にすることを育むことができる。そして、卒園時にそれを時計にしてプレゼントする。また、その背もたれの別の利用法としてクラス分に利用するなど考え次第で様々な利用が可能である。

5.完成図



6.結論

保育園に検証に行った結果、子どもには良い反応をもらった。使用法についても比較的良い反応がもられたが、座面の深さが浅い点や前脚の位置などの指摘を受けた結果、座面の寸法の修正と複数の規格提案、説明書の作成が必要だと思った。

7.参考文献

・身長事典 <http://shincho.roratio.com/>

・目の事典 <http://www.ocular.net/jiten/>